



水産海洋学会活性化委員会 ナイトセッション2019



若手研究者が考える 現場の感覚と実際のデータを繋ぐ研究

～東京湾を調べて3年目の私が思うこと～

神奈川県水産技術センター 栽培推進部・草野朱音

東京湾の貧酸素水塊を軸にした現場との関わり

- 神奈川県では貧酸素水塊調査の結果を「東京湾溶存酸素情報」として情報提供しています。
- 浜回りや報告会の効果？で、少しずつ漁業者さんや遊漁の方にも見ていただけるようになりました。
- 「これを見て操業してるよ！」という声に励まされることもあれば、「これ全然当たらない！」という声にどきっとすることも。



どうして魚が獲れなくなっているの？
貧酸素水塊って本当に漁況に影響しているの？

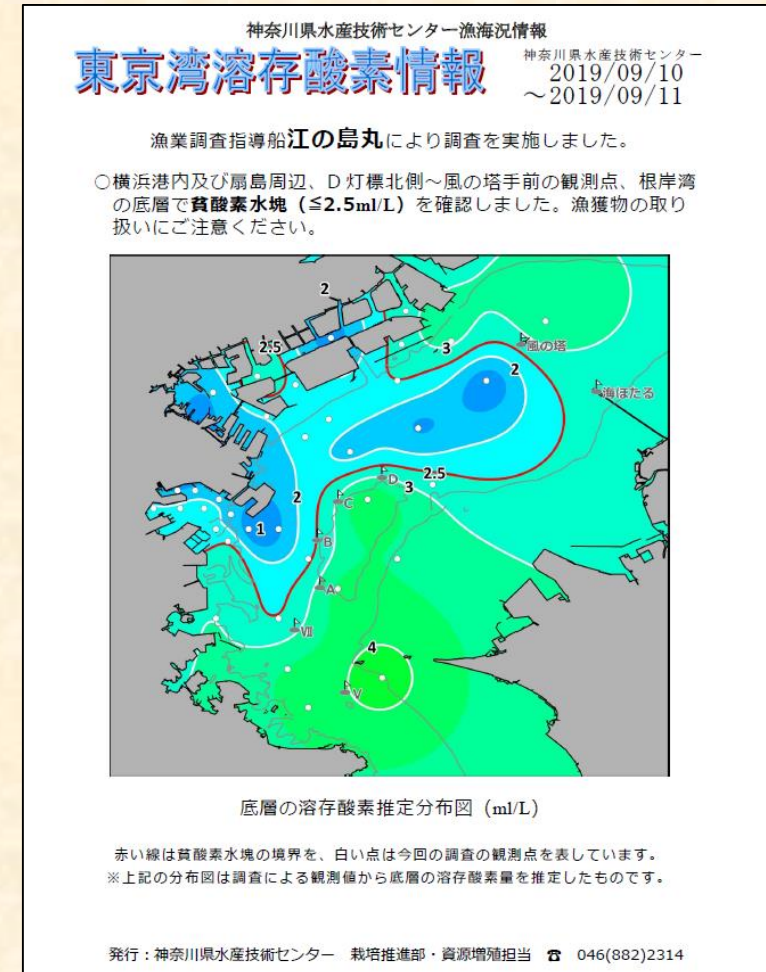


図 東京湾溶存酸素情報の例

漁業者さんの情報×水技センターの情報

○アナゴ筒漁をやっている漁業者さんとのコラボ

アナゴ筒の中に酸素計を入れて、連続的な酸素量の変化を記録する。

→貧酸素水塊の縁辺に集中、酸素量低下によるへい死、貧酸素耐性

○小型機船底びき網漁をやっている漁業者さんとのコラボ

操業日や操業場所、漁獲した魚の種類や状態などを野帳に記録してもらい、水技センターで行った観測結果と照らし合わせる。

→簡単な漁場環境マップ

(△△にとっては良い環境、××にとってはイマイチな環境)

理想は...お互いの「なんで？」に答え合える関係

○海のこと、魚のことを一番知っているのは漁業者さん



○現場のお話を聞く中で、

「あ！これってこの前の観測結果とリンクしてるかも！」

「ん？他県さんも同じようなこと言ってたな...。」



自分の持っているデータとの関連性・繋がりを考えてみる。
考えたこと・分かったことを漁業者さんにフィードバック
どんな情報が現場の役に立つか？必要とされているか？

